

■書評

夏石番矢の『ターコイズ・ミルク』

現代俳句詩の頂点

Ban'ya Natsuishi, *Turquoise Milk: Selected Haiku of Ban'ya Natsuishi*, Red Moon Press, USA, 2011, ISBN: 978-1-936848-07-2, USD 17.

http://www.redmoonpress.com/catalog/product_info.php?cPath=32&products_id=143

サントシュ・クマール (インド)

夏石番矢の『ターコイズ・ミルク』は、最も偉大な俳人の一人ジム・ケイシヤンの序論が付けられた、夏石の選良の俳句を含む最新の俳句集である。日本の詩的形式、俳句は、5・7・5音からなる。古典的日本の俳句には、季語と17音節が強制されている。

番矢の詩作品では、5・7・5パターンへの盲目的執着が見当たらない。芭蕉でさえ、いつも17音に従っていない。たとえば、次の芭蕉の俳句、英語で18音ある。

the first cold shower

even the monkey seems to want

a little coat of straw

(初時雨猿も小蓑を欲しげなり 訳注 日本語では17音)

創造的俳句を書くには、17音の厳格な追及では役不足だと付け加えられる。二つの比較されるイメージが、三つ目によって照らし出されるのなら、俳句の3行(短・長・短)は、「悟り」や「俳句モーメント」を産み出すのだろう。夏石番矢と鎌倉佐弓はともに、次のような似た見解を持っている。感動あふれる表現、直観、飾り気のない自発性が、季語や17音の使用よりずっと意味深いということ。これは、『ターコイズ・ミルク』からの次の俳句によって、十分に実証されている。

悲しみて描きし涅槃図悲しけれ

鸚鵡は覚えず「おとこ・おんな・し・むげん」

木に登る光明王とためらいの海
この果実爬虫類なりジャワの風

掲出の俳句において、私たちは、完璧な甘美さの抒情的瞬間が稀有であり、貴重であると気づき、その甘美さが、番矢の俳句を不滅のものとなしている。二つのイメージの並置と「切れ字」が、番矢の俳句を不死のものとしている。番矢の個人的才能の最深層は、玄妙な神秘的感覚の伝達である。

森の議会すべての雨粒が議員

夏石番矢が独壇場で立っているのは、このような自存する俳句モーメントである。

考える神を運べば砂嵐

『ターコイズ・ミルク』にあらわされた、番矢の文体の繊細で上質な確さは、容易に彼を、至上の天才として位置づけ、少なくとも現代俳句詩の頂点に置くだらう。